

はじまった東北アジア平和プロセスと日本——米朝首脳会談をめぐって考える

2019年2月18日

和田春樹

- 1 私は「東北アジア共同の家」を提案した——1993～2003
1990年7月23～24日、東亜日報社・朝日新聞社共催ソウル・シンポで「東北アジア人類共生の家」を提案——核心は、民主主義を基礎とする南北朝鮮の接近・融合
2001年11月、ASEANプラス3のWG、「東アジア共同体」を提起
2003年2月25日、韓国盧武鉉大統領、繁栄と平和の東北アジア共同体提案
同年8月、和田春樹『東北アジア共同の家——新地域主義宣言』（平凡社）刊行
東北アジア・コリアンの可能性、6か国と島の連合、非核化条約と緊急援助体制
2006年北朝鮮最初の核実験で話は消える
- 2 米朝戦争の危機から米朝首脳会談へ——危機＝チャンス
核爆発実験 ①2006・10・9、②2009・5・25、③2013・2・12、
以下水爆 ④2016・1・6、⑤2016・9・9、⑥2017・9・3
長距離ミサイル発射 17・5・14「火星12」（4000キロ）、7・4「火星14」（6～8000キロ）、7・28「火星14」（1万4000キロ）、8・29「火星12」（?）、
米日の威嚇と制裁 9月トランプ・安倍国連総会演説、11・5トランプ横田演説、
11・6 安倍記者会見、11・8トランプ韓国国会演説、11・11 米三空母参加日本海合同海軍演習
北朝鮮 11・29「火星15」（1万4000キロ）、「核戦力完成の大業」完成を宣言
米国 マクマスターの **Bloody Nose Strike** 作戦流れる
12月初 フェルトマン国連事務次長訪朝、11月13日国連総会決議「オリンピック休戦」もたらず、
2018・1・1 金正恩の新年の辞 2月平昌オリンピック開幕 3月平壤とワシントンをつないだ韓国大統領特使のはたらき 3月末中朝首脳会談 4月27日南北首脳会談と板門店宣言 6月12日金正恩・トランプの米朝首脳会談（シンガポール）
- 3 平和プロセスの目標は韓朝日平和国家連合を核心とする東北アジア6か国共同体
金正恩の方針 父金正日の構想（2004・5・22）「われわれの生存権のために核をもつようになった。生存権が保障されるのであれば、核は無用の長物である。」「核の完全放棄は敗戦国に対して強要するものだ。これはイラクのように無条件に武装解除しようとするものであり、受け入れられない。」「6者協議を通じて、アメリカとの2重唱を

歌いたい。のどがかれるまでアメリカと歌を歌う考えである」(和田『北朝鮮現代史』収録))

米朝共同声明 大統領は「朝鮮に安全の保証をあたえ」、委員長は、「朝鮮半島の完全な非核化にむけた堅固で揺るぎない決心を再確認」。「平和と繁栄を望む両国民の願いに従って、新しい米朝関係を樹立する」、「朝鮮半島に永続的で安定した平和体制を築くために協力する」ことで一致

勝者と敗者の会談ではない 対等な者同士の外交交渉、二国間の核軍縮交渉のはじまり
一方は非核化に向かうが、他方は非核化にむかわず、何を与えるのか。

平和プロセスのプログラム化が必要

- 1 米朝関係を正常化すること 制裁の緩和がはじまり
- 2 北が核施設、核物質、核兵器の保有量を申告、査察をみとめ、廃棄をはじめること
- 3 朝鮮半島の平和化、非核化、軍縮、非同盟化
- 4 米朝戦争の可能性を消しつくすには 日本海の非核化・平和化 日本列島・沖縄の非核化、平和化、非同盟化 日本にかかる米国の核の傘の撤去 在日米軍基地の縮小・撤去の検討、日米安保条約の検討

日本の参加が不可欠 日朝国交正常化が急務 制裁維持したままの無条件国交というオバマ・キューバ方式が合理的 大使館開設して懸案協議開始

文化交流の即時開始、米原爆による広島長崎被害写真展の平壤開催

めざすべきは東北アジア共同の家である

北東アジア非核地帯構想（日韓朝の非核化プラス米中露は核兵器不使用の約束）は修正されなければならない

北が核兵器をもった以上、よりラジカルな変革が必要

日韓朝は非核化・軍縮・非同盟化・平和国家化（戦争放棄条項をもつ憲法を共有）

米中露は三国の安全を保証することを通じて不戦の盟約

日韓朝が米中露を結びつける

東南海地震を待つ日本は震災と闘う地域援助体制の中心に